

# 追悼



故 神谷 咸吉郎 会員 (8期)  
2020年11月11日逝去・89歳  
1972年度東京弁護士会副会長

## 神谷咸吉郎先生を偲ぶ

会員 福家 辰夫 (19期)

1 神谷先生は、東京下町育ちの快男子であり、長じてもその闊達な気風は変わらなかった。私が神谷先生の名前を初めて知ったのは、母校である都立上野高校の恩師から、私が弁護士になったことを知って、「神谷はどうしている」と訊かれ、その際に神谷先生の母校における逸話を聞かされた時である。

神谷先生は、旧制東京市立二中に入学し、戦後東京都立上野高校に学制が変わったのに従い、上野高校にそのまま進学した。当時の同校の教頭が戦時中は軍事教育を厳しく行ってきたのにもかかわらず、戦後になると一転してデモクラシーを声高に唱えるようになったことが許せないとして、同校の級長会の一員として教頭追放運動を起し、全校生の授業放棄のストライキを主導し、多くの学生がこれに参加したということで、多くの教職員が神谷先生を退校処分すべきだとしたが、当時若手の教諭らが尽力してなんとか退学処分を免れたということであった。

この話は後に神谷先生本人からも直接聞いており、先生から聞いた話は、夜を徹して教室に閉じ籠るなどもう少し勇壮であり具体的で面白いものであった。

2 先生は、昭和44年度の法友全期会代表幹事に就任し、東弁役員選挙の公正化と東弁・日弁連の民主化を強く訴え、東弁の民主化と選挙の浄化を実現する大きな一因となった。その後、先生は日弁連理事を二期、東弁副会長、日弁連事務次長、東弁常議員会議長など弁護士会会務において重責を荷った。委員会活動では長く司法問題対策委員会委員を務めた外、特筆すべきは日弁連女性の権利に関する委員会委員長を務められたことである。先生は、「僕は若い頃芸者遊びを少々楽しんだ

だけに忸怩たるものがある」と述懐していた。

3 先生は弁護士会の活動ばかりでなく、推されて最高裁判所一般規則制定諮問委員会委員や法制審議会民法部会委員も務められ、法制審では選択的夫婦別姓制度の実現に熱心に取り組んだが、自民党の反対により実現しなかったことをいつもの笑顔で口惜しがっていた。東京地方裁判所調停委員を長く務めると共に人権擁護委員も長く務め、練馬法曹会でも練馬区法律相談員として区民表彰を受けている。また、テレビ東京の法律相談や、ラジオの法律相談にも出演して活躍するとともに、朝日新聞主催の朝日カルチャーでも民法の講座を長く担当していた。

4 このように記憶を辿ってみると、先生の活動範囲は極めて広汎であり、しかも枢要な活動をしており、その人生は著しく多忙であったと思わざるを得ない。しかし、先生は若い会員を大変可愛がる場所があり、弁護士会の会合などでも二次会には必ず出席し深夜にまで付き合い、若い後輩たちとも議論を楽しんでいた。

5 ここ2、3年は、体調を崩した奥様と共に有料老人ホームに入ったとお聞きしていたが、先生はお元気にしていると伺っていただけに、御逝去を知って驚いた。仲の良かった奥様も1カ月前に亡くなられたとお聞きした。

若い頃、酒席で先生に弁護士としての心構えをお聞きしたところ、先生は「下町の良心、庶民の良心に恥じない」という言葉を発せられた。なかなか味わい深い言葉だと思ったが、私がどこまで先生のこの言葉の意味を理解できていたかは疑問である。